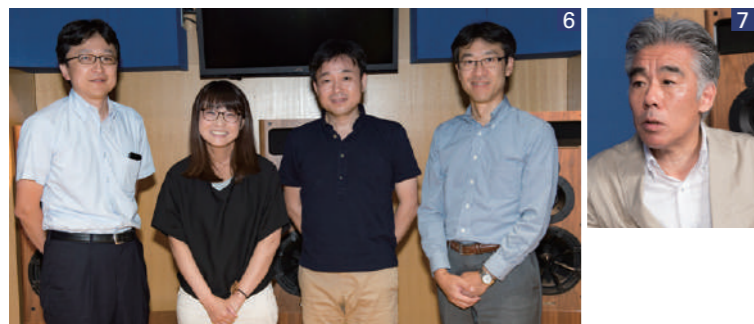


東京・神宮前のビクタースタジオにある「EX Room」が測定の舞台。スピーカーはPMCで全チャンネル同一クオリティ。ややデッド気味のチューニングで、普段はマルチチャンネル試聴などにも活用されているという。音の定位が得やすく、また、音源や機材の特長も出やすく、プレミアムな個人音場特性データを出すためには最適な空間である



1 聴診器のようなMEMSマイクを耳穴近くに固定して測定をおこなう。はじめにスピーカーから、次にヘッドホンをした状態で再生音を測定する。2 測定結果を確認する筆者。耳の形状などは千差万別で、他人のデータでは自然な定位感は得られないという。3 EXOFIELDのオン/オフを繰り返しつつ試聴。オンにすると音が前方定位する。4 「WIZMUSIC」のために開発された「HA-WM90」。水底に約160年間沈んでいたヴァンテージウッド「アークアティンバー」をハウジングに採用したプレミアムヘッドホンだ。5 測定データはスマホアプリ「WIZMUSIC」で、いつでも呼び出せる。「ビクタースタジオ」で聴いたスピーカーの音を気軽に持ち運べるわけだ。



6 取材にご対応いただいた株式会社JVCケンウッド メディア事業部の江島健二氏、山口優美氏、浅川健司氏と筆者。7 ビクタースタジオの秋元秀之氏も「WIZMUSIC」のプロジェクトに合わせた。ものづくりの部分でも、ヘッドホンの音質・音場チューニングに携わり、その知見を惜しみなく注ぎ込んでいるという。

●プレミアムパッケージ<WIZMUSIC90>

ヘッドホン「HA-WM90」、ヘッドホンアンプ「SU-AX01」、バランス対応ヘッドホンケーブル(1.8m)、ヘッドホンケーブル(1.2m)、専用本革キャリングケース、個人測定データファイル、専用音楽再生スマホアプリ「WIZMUSIC」、ハイレゾ楽曲(200曲相当)、ビクタースタジオ「EX Room」が測定場所、ご本人様とそのご家族(最大4名様)が測定対象、お渡し場所がビクタースタジオ(お渡し時に見学会開催)

●スタンダードパッケージ<WIZMUSIC30>

ヘッドホン「HA-WM90」、ヘッドホンアンプ「SU-AX7」、ヘッドホンケーブル(1.2m)、専用本革キャリングケース、個人測定データファイル、専用音楽再生スマホアプリ「WIZMUSIC」、JVCマスターリングセンター赤坂スタジオ、ご本人様だけが測定対象、配送でのお渡し

もフラット、強いていえばモニターライクな音色傾向だ。希少なアークアティンバーから削り出したモノコックハウジングにドライバーユニットを直接固定するダイレクタマウントにより、振動や共鳴を抑える効果も現れているのだらう。開発段階との比較だが、受けた印象はかなり異なる。スピーカー特性測定に使用した機器や測定空間の違いか、音場のスケール感がまるで違う。定位や音場のリアルさはEX ROOMで測定したプロフィールが断然上。再生時に使うハードウェアの差もあるにせよ、個人プロフィールに利用するリスニングルームと再生機器の組み合わせの妙がEXOFIELDひいてはWIZMUSICの音を創りあげるのだらう。実際には、個人プロフィールをスマートフォンやパソコンに取り込み、専用アプリ(Windows向けにはFoobar 2000用プラグインを提供)で再生するため、WIZMUSICは「場所を選ばずスピーカーリスニングに近い音場感・定位感を楽しめる」再生環境になる。将来的にはマルチチャンネルも視野に入れているというから先々に期待できるという点でも注目といえる。

て行う。プチプチという断続音をスピーカーから出力し、マイクで集音した波形とオリジナルの波形を比べることで、リスニングルーム内の壁や家具、被測定者の頭部などに複雑に反射し、干渉を受けたインパルス応答がわかるのだ。マイクを付けたままヘッドホン(HA-WM90)を装着し、今度はヘッドホンから聞こえる断続音でインパルス応答を測定する。スムーズに進めば、ここまで5分程度だ。その後、EXOFIELDのオン/オフを繰り返しつつ試聴したが、

おもしろいほど効果がわかる。筆者の前方には、PMCのスタジオモニターが鎮座しているが、EXOFIELDをオンにするとそこから音が出ているかのよう。スピーカーリスニングそのものとは異なるが、音はしっかりとスピーカーの間に定位する。音質はヘッドホンに大きく左右されることになるが、WIZMUSIC用に開発された「HA-WM90」はいい意味でクセがない。新開発の高磁力ネオジウムドライ

バーによる音は反応が迅速で特性



復活を果たしたビクター第1弾となる製品が「WIZMUSIC」だ。正確に言えば、ハードと不可分の関係にあるソフトが一体で価値を生み出す複合サービスである。その根幹をなすのが「EXOFIELD」で、これまでにない完成度でヘッドホンリスニングで頭外定位を実現する技術である。音楽制作の現場では、前方に設置したスピーカーでモニターすることが前提だが、ヘッドホンリスニングは頭内で定位する。そのため制作側の意図した音場/定位を得にくく、再現性の観点から大き

な課題があるとされてきた。EXOFIELDはそれに対する解答であり、ヘッドホンリスニングでありながら前方に音場が広がるような頭外定位を実現する。テクノロジーの鍵は「個人プロフィール」にある。従来のヘッドホンによる頭外定位再生は、標準化された頭部伝達関数を利用していたために音場再現性に難があったが、EXOFIELDでは一人一人リスニングルームで測定した個人プロフィールによるカスタマイズした頭部伝達関数を用意することで、各人各様の耳介形状に対応でき、測定時のリスニングルームに近い音場感を再現できる。WIZMUSICに「90」と

「30」の2種類のパッケージが用意される理由は測定環境の違いが大きい。測定時のコンディションが音場感・定位感を決定付けるため、よりよい機材・音響効果を備えるリスニングルームの方が上質な体験を得られるというわけだ。今回の取材は、WIZMUSIC90の測定場所と同じ「ビクタースタジオ EX ROOM」を利用した。筆者はJVCケンウッド試聴室で開発途上の機材/ソフトウェアを利用での測定および試聴も体験しているため、その比較も交えてレポートしてみよう。最初に言われるスピーカー特性の測定は、聴診器のような形のMEMSマイクを耳穴近くに固定し

「ビクターWIZMUSIC90」を体感！自分だけの音場を手に入れる！

「ビクターWIZMUSIC90」を体感



取材・文 海上 忍 Shinobu Unakami